



親松英治さん 日展・彫刻部門で内閣総理大臣賞

両津地区（羽二生）出身の彫刻家・親松英治さん（神奈川県藤沢市在住）の作品「春雷」が、第43回日展で最高賞となる内閣総理大臣賞に輝きました。受賞作は、高さ2メートル25センチ、幅1メートル20センチ、奥行き49センチの大作です。親松さんに喜びの声などをお聞きしました。



親松さんと内閣総理大臣賞受賞作品「春雷」



両津欄干橋にある親松さんの作品「いさりび」

●受賞作品は、どんな作品ですか？

早春の野に放たれた若駒が突然の雷鳴に驚いて天を蹴り上げる構図で制作しました。背にハーブを取り付けたのは、雷鳴をイメージしています。古来、春の女神はハーブを手を持つ中国の故事にちなんだものです。現代のスピードと単純化の感覚を作品に取り入れ細部をはぶき、大胆に面と線を強調して制作しました。単なる写実ではなく、写実と抽象の接点を求めて制作しました。これで現代感覚のある作品ができました。

●喜びの声をひとこと

審査主任から「作品は熱情と詩情にあふれた大作で、馬の細部表現を省略し、ダイナミックな動勢を空間に大らかに自然に構成し、その存在感は量感を伴って的確である。作者の感性による独自の様式化は、永年にわたる作者の内実の輝きも加わり、生命感のある秀作である。」と評されて受賞につながったことは私の喜びです。何よりも、今までの写実主義から抜け出して、抽象化へ一歩前進したことが嬉しいです。

●佐渡の皆さんへメッセージを

豊かな古典芸能に育まれた佐渡の人情と感性が、多くの作家を育てています。芸術は風土から生まれるものであるため、これからも佐渡の風土人情が変わることなく続いていくことを祈っています。芸術が盛んなときに国が栄え、芸術が衰えるとき国も衰えるのですから、芸術を興し、精神を昂揚し、佐渡の活力を高めたいものです。

親松英治さんプロフィール：1934年（昭和9年）、旧両津市に生まれる。清水多嘉示氏、橋本朝秀氏などに師事。1961年、武蔵野美術大学彫刻科研究科修了。1978・83年、日展特選。1981年、木彫マリア観音像を制作しローマ法王ヨハネパウロ2世に献納。1990年、97年、2004年、日展審査員。現在、日展評議員を務める。佐渡市内にも多数の作品が展示されています。

小木中学校が博報賞を受賞

小木中学校の「ふるさとを愛する心と表現する力をはぐくむ活動～宿根木観光ボランティアガイド活動」が第42回博報賞（教育活性化部門）を受賞しました。

博報賞は、日常の教育現場で貢献・努力されている、学校・団体・教育実践者を顕彰するものです。審査講評では、「部活動として地元の観光ボランティアに、全校生徒の半数以上が参加し、その活動を通してふるさとに誇りを持つとともに、見知らぬ他者とのコミュニケーションをすることで表現力を身につけるなどの、生徒たちの生き生きとした成長が見られる。また、地域住民とも一体化した活動へと発展しており、地元の活性化にも貢献している。」と評価されました。



みさとかい

「美佐渡会」が第16回新潟県環境賞を受賞

「美佐渡会」は、島内の旅館やホテルの女将たちにより構成される会です。志を持った仲間が集い、身近な問題解決に挑戦し、それらの結果を組織内外に啓発する活動に取り組んでいます。エコアイランドを目指す佐渡において、何度でも使える「えこ箸」を提案し普及に努めた結果、現在では観光施設ではほぼ浸透し、多くの飲食店でも使われるようになりました。その他、エコタオル作成や清掃活動、ゴミの減量化等、様々なエコチャレンジ活動にも取り組んでいます。

このような取組みが高く評価され、第16回新潟県環境賞が贈られました。

